

武蔵野市エコプラザ（仮称）運営会議（第2回）議事要録

日時 令和2年1月14日（火）19:00～21:00

場所 武蔵野クリーンセンター 見学者ホール

出席者 委員9名、事務局4名

小澤委員長、池上委員、中西委員、宮坂委員、井口委員、梅田委員、塩澤委員、越智委員、木村委員

- 議事等
- 1 工事の進捗について
 - 2 連携会議の進捗について
 - 3 プレ事業 環境の学校について
 - 4 プレ事業 情報発信ツールの検討について
 - 5 環境フェスタ・エコマルシェ等について
 - 6 行政視察について
 - 7 令和2年度エコプラザ（仮称）運営会議について

委員自己紹介

発言者	要旨
委員長	今回初めて参加された方に、自己紹介をお願いしたい。
委員	横河電機に勤務している。昨年8月からCSRの部署に配属となり、連携会議にも何回か参加している。いろいろな団体があるため、当社のCSR活動の参考となるよう勉強したい。
委員	NPO 法人武蔵野自然塾を主宰している。武蔵野自然観察園の365日の運営のほか、月2～3回イベントを行っている。また、小学校に出向き、年間50回程度の自然観察事業を行っている。大人向け事業は年間5、6回行っているが、広報が市報と団体のホームページに限られるため、参加者が少ない。小学生向けの事業は小学校でチラシを配ることができるが、大人向けのイベントは配布できない。評価が参加者数なので、大人向け事業のチラシも配布できたらと考えている。

1 報告事項

発言者	要旨
委員長	報告事項（1）、工事の進捗から説明をお願いしたい。
事務局回答	資料1「エコプラザ（仮称）工事進捗について」、資料2「エコプラザ（仮称）連携会議の実施状況について」に基づき説明。
委員長	連携会議にご参加いただいている委員の方がいるので、ご意見があ

	<p>と思う。建物ができると空間のイメージが明確になってくる。想像しているよりも良いものができるのではないか。資料1と資料2の中でご意見があればいただきたい。</p>
委員	<p>前回もご紹介したが、エコマルシェで毎回、エコプラザツアーを行っている。ツアーでは普段入れないところを回っているが、参加される市民の方は、プラットホームの空間に入った時に、特に興味を持たれているように感じている。</p> <p>また、建物の東にある広場が工事中だが、クリーンセンターの管理棟に階段ができたので、階段から広場を見下ろすとか、エコプラザ側からクリーンセンターを見るとか、そうした新しい景色が見えた時に、市民の方が関心を持ち始めているという手ごたえを感じる。</p>
委員長	<p>階段に座って広場を見渡すことができる。学校建築でも学校内に階段があると、そこが舞台になって合唱ができたりするが、こうした空間ができています。先ほど、参加人数の話があったが、どのように人に来てもらうかは課題である。</p> <p>芝生の広場で子どもたちが遊び、ママたちが集まっておしゃべりしている風景ができると良いと思う。子育てが落ち着いた時に、エコプラザで能力を発揮してサポートしてくれると良い。</p>
委員	<p>何ができるか手探りの状態で連携会議に参加しているが、NPOなど、こんなにたくさん活動している方がいることに驚いた。企業の取り組みも、企業だけ実施するのは難しいため、NPOの方にご協力いただいているが、なかなか活動が広がらないという課題がある。様々な団体と連携して、啓発活動ができればと考えている。連携会議は少し意見が散らばっているように感じている。どのようにまとめていくのか不安はあるが、意見が出ていることは良いと思っている。</p>
委員	<p>連携会議は当初、ハード面の話が先行していたが、後半になるにつれて、各団体がクリーンセンターの歴史などを理解した上で、エコプラザの事業等の話へとつながっていているように感じている。これからエコプラザで取り組む環境啓発は、幅広い考えを持たなくてはならないという熱い思いを感じる。ゼロから形作っていくので、遊びながら夢を現実につなげていくのが大事だと考えている。これからは楽しみである。</p>
委員長	<p>技術者である委員からこうした意見が出るのは嬉しいが、夢だけでは難しいところもある。市報の対談で、中学3年生の生徒が「未来がない。」と話をしていたが、未来があると思えるようにするのがエコプラザの役割になる。「表層的な学び」ではなく、「深い学び」につながるこ</p>

	<p>とが大切。市が人材を育成し、市民の力を活用していく必要がある。</p> <p>他市の市長から、「武蔵野市のクリーンセンターを参考にしている。」というメッセージを年賀状でいただいた。「しんか」には、進めていくという「進化」と、深めていくという「深化」の二通りがある。「メタボリズム」ではわかりづらいため、「進化・発展」に置き換えて、基本的な考え方の一つとした。武蔵野市から世界に発信していきたい。</p>
委員	<p>連携会議の話聞いていて、子どもたちにどのように開かれていくのか、また、子育て世代の親たちにどのように伝えていくのかがとても大切だと感じた。</p> <p>小中学校では環境教育が行われているが、就学前の保育園・幼稚園でも、ごみや環境を身近に感じる機会があれば良いと思う。私が働いている保育園では、クリーンセンターで集めたごみで作品を作り、展示してもらったことがある。こうした経験によって、ごみは家庭で出したら終わりではなく、その先はどこへ行くのかということに、子どもたちが関心を持つようになる。子どもたちの活動から、親たちもエコプラザやクリーンセンターに行ってみたいと思うようになると思う。エコマルシェなどのイベントだけではなく、日常の保育の一環として取り入れられると良い。そのためのPR活動を強化したい。</p> <p>また、ごみを再利用するというのも大切なので、「ものづくりスペース」があると良い。「木育広場」があるように、「ごみの広場」があって、ごみにいろいろな活用の仕方があることを感じられると良い。そうしたことがプラットホームでできると、足を運ぶきっかけになると思う。</p>
委員	<p>エコ活動には素人なので勉強したいと思っている。私はクリーンセンターがある緑町で育った。クリーンセンターがこの地にできたのは、緑町や北町の方々の理解があったからこそだと感じている。</p> <p>人が集まるイベントというのは、一朝一夕には難しいと思う。その集客の一端は、PTAの世代が鍵になると思う。親たちがエコプラザに通うことで、子どもたちがエコプラザを身近に感じ、成長した時にエコプラザの活動に関わりたいと思う人が出てくるのではないかな。</p> <p>自分の子どもが小さい頃に、「ミニタウン」という手づくりの職業体験イベントがあったことを思い出し、地域ぐるみのすごい取り組みだと感心した。そのイベントに参加していた小学生が大学生になって、「ティーンズタウン」という同じようなイベントをクリーンセンターで実施している。今までにない仕組みをつくり、盛り上がっている。</p> <p>自分たちが楽しいと感じたイベントが次の世代につながっていることに感心している。このことから、エコプラザが武蔵野市から世界へ</p>

	と発信する施設となるのも夢ではないと思う。
委員長	<p>ミニタウンはもともとミュンヘンで始まったもので、2年ごとに行われている。クリーンセンターやエコプラザ発のミニタウン、ティーンズタウンがさらに拡大していくことを期待している。</p> <p>子どもから大人へと話を移すと、連携会議ではいろいろな意見が出ている。例えば、「健康」ということを考えたとき、生物多様性や生き物から学ぶことも必要だと思う。</p>
委員	<p>エコプラザの大きな目的は「環境啓発」だと思うが、その結果をどう評価するのか。入場者数だとすると、入場者数を増やすためのイベントになってしまう危険性がある。本当に環境のことが学べるイベントにする必要がある。また、教育委員会と連携し、小学生の授業で施設見学を行ったり、夏休みの宿題で施設見学の感想を提出させたりするなど、具体的な効果を把握できるようにする必要がある。</p> <p>武蔵野市の税収はこれから厳しくなるが、住環境に恵まれているという良さを活かした施策を行ってほしい。団塊の世代が年金をもらうようになり、担税力がある人を呼び込むことも大事になる。緑地がどんどんつぶれてアパートになっている住環境の現状を踏まえ、政策を考えていかななくてはいけないと思う。</p>
委員長	<p>先ほど、イベントに来た人数で評価をしていたという話があったが、エコプラザでは入場者数だけで評価することがないようにしようと話している。目的は「深い学び」である。</p> <p>私は札幌出身だが、最近では温暖化の影響を受けて雪が少なくなっていることで除雪の費用が減っているが、同時に、雪祭りを行うための雪がない事態が起きている。こうした気候変動と地域の環境のつながりを学ぶことが必要になる。社会科でクリーンセンターに見学に来ているが、どうやって見学したことを「深い学び」につなげるかということが課題になっている。</p> <p>アイデアはたくさん出ているので、それを結果につなげていくことが大切だと思っている。</p>
委員	<p>連携会議に出ている中で気になっていることが2点ある。</p> <p>1点目は、既存の活動をする場所として利用できると考えて参加している方が多いようで、それは違うという意見を述べた。これから新しい活動を生み出していくことにエコプラザの価値があると考えているので、少し考えを変えていただきたいと思います。</p> <p>もう1点は、連携会議で「教育」というテーマで話をしていた時に、それぞれがとても強い思いで参加していることを感じた。ただし、第三</p>

	<p>者から見ると、子どもに伝えたいという思いが、やや上から目線なのではないかということが気になった。それを抑えることを念頭に置きながら、プログラムを検討したい。小学4年生がクリーンセンターの見学に来るが、本当に4年生くらいが興味を持ってできることを考えられたらと思う。</p> <p>将来に向けた意見が他の委員からあったが、将来的にはクリーンセンターが必要でなくなる時が来るように、そのためにエコプラザがあると考えている。武蔵野市は約15万人の市民が在住し、そのうち3分の1が昼間は都心に働きに出ている。エコプラザの理念の中には「地域力を高める」という柱があるので、働きに出かけている人たちにも武蔵野市や地域に関わってもらい必要があるのではないかと考えている。その中にエコプラザの活動があり、プログラムの検討にも必要な視点だと思う。</p>
委員	<p>サステナビリティ教育センターができて2年になるが、目指すところは「持続可能な取り組み」。教育機関なので、育てていく人がどんな考え方ができて、どんな判断ができるように育つと良いかを考えている。非常に活性化してうまくいっているが、その分とても忙しい。</p> <p>ある高校生は難民支援の活動がしたかったが、どうやってできるかわからなかった。5万円あれば映画が上映できるというので、大学が支援し、できることになった。学会で発表したい、復興支援をしたいなど、したいと思うことを言えるようになり、できるようになった。高校生だけでなく、小学生も中学生も、大学生も興味を持って、自分がしたいことを言えるようになってきた。どうやってできるかを一緒に考えて、「やっても良いよ、協力するよ。」と言ってくれる場所があることが非常に良かった。ある中学生がSDGs委員会をつくり、ポスターを作ったと聞いたので、「大学に貼るよ。」と言うと、また来るようになった。フェアトレードのイベントに行ってきたと言うので、話を聞きたいと言うと、レポートを書いてきてくれた。みんなが興味を持ってきて、来なくなるということが重要。思っていたけどできなかったことが、できるようになることが大切である。数値になる結果ではないが、成果と考えている。</p> <p>また、センターとして感じていることは、予算に限りがあることを人間は忘れがちになる。私は理工学部で、制限がある中で最善策を見つけようという研究をしている。精神論ではなく、限られた資源の中でできる情報発信が必要と考えている。大学内には気象観測所があり、武蔵野市の気象情報を持っている。こうした情報も利用して、興味を持つ機会</p>

	<p>にしてもらえると良い。会社や公立の学校などにも興味を持つ機会があって、ちょっと知ること自分たちができることが広がるといった、つながりや楽しさが、今、私が経験していることとして感じている。</p>
委員長	<p>今年9月には池上委員の大学で日本ESD学会の大会が開かれる。</p>
委員	<p>9月19日、20日に行われる日本ESD学会では、ユネスコスクールの関東ブロックも同時に行い、できる限り地域の方等を巻き込みたいと思っている。</p> <p>また、委員の皆さんにチラシをお配りしたが、「宇宙から環境を考える」というイベントを開催する。知的好奇心を刺激することで人を集めるのも大切だと考えているため、私の大学では「宇宙から環境を考える」ことを多く行っている。“ブラックホール”や“はやぶさ”等に、皆さん、知的好奇心をくすぐられて来てくださるので、それを環境につなげている。</p>
事務局回答	<p>資料3「環境の学校の活動について」、資料4「情報発信ツール検討について」、資料5「エコマルシェ・環境フェスタ等について」について説明。</p>
委員長	<p>事業の説明があつたが、すでにアイデアはたくさん出ている。皆さんの知恵が集約されて、地域の低炭素社会の実現につなげていけるかが問われている。委員からの意見にもあつたが、単に既存の環境活動をする場ではない。うまくつながりを持たせて、より良く生きるための法則をみんなで考えていく必要がある。</p> <p>学んだ知識をただ蓄えているだけでなく、自分たちで考えたアイデアを使って実現できることが、意欲を高めることにつながる。それは若い人も一般市民も地域住民の方も同じだと思うので、そういった方法をこれからはとっていかなければならない。</p>
委員	<p>連携会議や環境の学校などを開催している中で、まだ、皆さん、11月の開館まで時間があるため、イメージの共有ができていないところがあり、少しフラストレーションがたまっている感じも見受けられる。他の委員から、新しい活動を生み出すことが重要という意見があつたが、どういう仕組みを作っていくかが大事だと思っている。</p> <p>環境の学校については、学びたいという意欲があるので自主研究が育ってきた。少しずつ広がりができてきている。施設は11月からスタートするが、最初からコンセプトの完成形を目指している訳ではなく、そこがスタート。環境問題は日々変わっていくので、テーマも日々変わっていくと思っている。運営会議ではルール等を決められたらと思うので、来年度は回数も増やし、いろいろな方面からお集まりいただいて</p>

	<p>いるので、この会議で良いディスカッションができたと思う。</p>
委員長	<p>3回目の会議で今後の話をできるのではないかと考えている。連携会議でアイデアはたくさん出ているので、組織として、それをどう集約していくかが考える必要がある。</p> <p>知恵を出し合って、「環境の学校」の方たちの学びあいの場へとどうつながっていくのかなど、運営会議の立場で考えていきたい。</p>
委員	<p>エコプラザの「学び」について考えた。「学ぶ」には2つの意味があると思っている。1つは「教養を学ぶ」、もう1つは「体験的に行動を起こす」である。遊びの中から手が器用になったり、絵を描いて想像したりするなど、自分が気づいて吸収するという。エコプラザがこれから取り組むことは、子どもたちに魅力を持たせる遊びを体験させて、形にすることではないか。企業で働いていた時に思ったことだが、新入社員がそれまで勉強してきたことは、現場ではあまり役に立たない。体験しながら疑問を持って、本人が吸収していく気づきを援助してあげる。まさにエコプラザは環境に役立ちそうなアイデアに触れながら体験してもらいたいイメージ。</p> <p>今後、評価ということになれば、参加人数だけでなく、体験活動を通してできあがったもの、果実が評価になると思う。どんどん発展を続ける終わりのない旅である。</p>
事務局回答	<p>資料6「令和元年度環境啓発施設等行政報告」に基づき説明。</p>
委員長	<p>震災後に子どもたちが夢中になってエコ活動に取り組んでいたことには学ぶべきことがたくさんある。</p> <p>LEAFの「地球ウォッチングクラブ」プログラム活動は、全国の「こどもエコクラブ」の基になっている。各施設、それぞれ地域の特性があって良い。機会があればこのメンバーで施設に行きたい。</p>
委員	<p>「いわきアリオス」については、私が紹介したので少し補足したい。芸術文化施設なのに、なぜ紹介したのかというと、エコプラザは環境啓発のための施設だが、そもそも市民のための場所なので、環境関係の人だけが集まる場所になってはいけないと思っているからである。「アリオス」は、文化関係の市民活動で利用する場として構想されたが、実際には中高生に勉強スペースとして利用されてもいる。それで良いと考えている。芸術文化施設は既存の芸術文化団体や愛好家だけの施設になりがちだが、文化に特化せず、たくさんの市民が利用する場所になっているところを参考にさせていただきたかった。</p> <p>設計段階から、「屋根のある広場」というコンセプトで、市民が勉強したり、近隣の会社員がお昼の弁当を食べに来たりするなど、隙間をた</p>

	<p>くさんつくっていいこうという考えで進めてきた経緯がある。そうしたたくさんの方の市民が自由に利用することに価値を認めてつくった施設があるということ、ぜひエコプラザでも学んでほしいし、そうした市民の「学びと憩いの場所」にしたい。</p> <p>地方自治法では、自治体が公の施設を設置できることになっており、施設については住民が誰でも利用できることを保証しなくてはならない。だが、専門的な施設を専門的な用途のために、専門性のない人を排除して、専門的に利用する人たちに占有させることができなくなってしまったので、条例を設けることで、目的や用途、占有の方法などを決めてきたのが今までの日本のやり方である。これからはそうしたスタイルではたちいかなくなると思っており、もっといろいろな人が、多様に利用できる空間をつくっていく必要があると考えている。エコプラザの運営ルールを検討する際に、新しい利用のあり方を意識する必要があると思い、紹介した。</p>
--	---

2 議事

発言者	要旨
委員長	議事の令和2年度エコプラザ運営会議について説明をお願いしたい。
事務局回答	<p>時間の都合で議事の意見交換は、次回第3回で行う。</p> <p>来年度の運営会議は予算要求ベースで6回予定しており、うち1回は視察を予定。中期的な事業や利用のあり方、運営のあり方、評価の手法が重要事項で、それらについて議論をお願いしたい。</p> <p>また、昨年3月の管理運営方針にあるとおり、サポーターの募集について、併せてご意見をいただきたい。</p>

3 その他

発言者	要旨
事務局回答	<p>第1回の議事要録について、修正は今週中にご連絡いただき、ホームページにアップしていく。</p> <p>第3回の運営会議の日程調整は、近日中にメールで依頼する。</p> <p>現在、施設コーディネーターを募集中。4月1日任用予定。</p>